



お知らせ

記者発表資料	平成27年2月4日
配布日	

資料提供先：岡山県政記者クラブ
岡山市記者クラブ

日本最大級※のライジングセクターゲート※※ (百間川河口水門増築事業)が、 3月1日(日)に完成します。

～岡山市の治水安全度が大きく向上～

百間川河口水門の新水門（日本最大級のライジングセクターゲート採用）増築工事が完了し、平成27年3月1日(日)に下記のとおり完成式典を開催する運びとなりましたのでお知らせします。

新水門は、岡山市街地の洪水被害を軽減させるため改修を進めている旭川放水路（百間川）の河口に位置し、昭和43年に完成した既設の水門と同程度の放流能力を有しています。この新水門完成により、百間川河口の洪水放流可能量は現在の約2倍の2,450m³/sとなります。これにより、戦後最大規模の洪水が発生した場合でも、百間川下流部の氾濫被害が解消されます。

※日本最大級：ゲートの「幅」「重量」は日本一。「高さ」は2番目。

※※ライジングセクターゲート：ゲートの両端が円盤となっており、円盤を回転させることにより開閉する。

記

日時：平成27年3月1日(日) 13時30分～

(気象条件等により中止する場合は前日夕刻にお知らせします。)

場所：岡山市中区沖元地先（別紙案内位置図参照）

主催：国土交通省中国地方整備局

出席者(予定)：地元選出国會議員、岡山県知事、岡山市長、岡山県議会議員、岡山市議会議員、町内会長、地元関係者等

補足：式典終了後に参加者による記念運転・記念碑の除幕を行う予定です。

【問い合わせ先】国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所

電話 086-223-5101 (代表)

086-223-5104 (総務課直通)

086-223-5184 (工務課直通)

<担当>

副所長 庄司 俊介 (内線204)

総務課長(式典内容) 門田 恵介 (内線211)

工務課長(事業内容) 大塚 尚志 (内線311)

日本最大級のライジングセクターゲート！

- 河口水門増築事業は平成13年に事業着手し14年の歳月をかけた大事業です。
- 新しく増築する水門はライジングセクターゲート形式を(中国地方初)採用。
幅、重量とも**日本最大級**！
水門本体の高さを低くすることができ、耐震性、景観性、経済性に優れます。

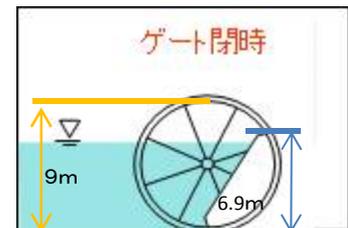
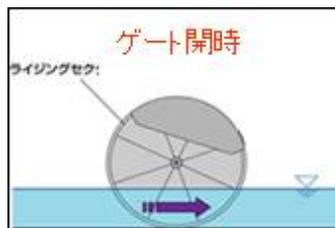
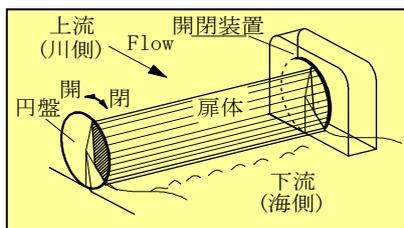


現地状況(増築水門右岸側より)

ゲート近景写真:人と比べると大きさがわかります

増築水門 構造諸元等		
水門の全長	113.7m (径間長37.9m×3 門)	
純径間	33.4m	
敷高	H. P-2.20m	
ゲート天端高	H. P+4.70m (計画高潮堤防高)	
ゲート引上げ下端高	H. P+3.95m (百間川計画堤防高)	
扉高	6.9m (H. P+4.70m-H. P-2.20m=6.9m)	
揚程	6.15m	
ゲート形式	ライジングセクターゲート	
開閉装置形式	油圧モータ・ラック式 (片側4 台駆動)	
管理橋	形式	3径間連結連続PC ポステンT 桁橋
	橋長	113.7m
	幅員	7.0m
事業費	約131億円	

ライジングセクターゲート構造イメージ図



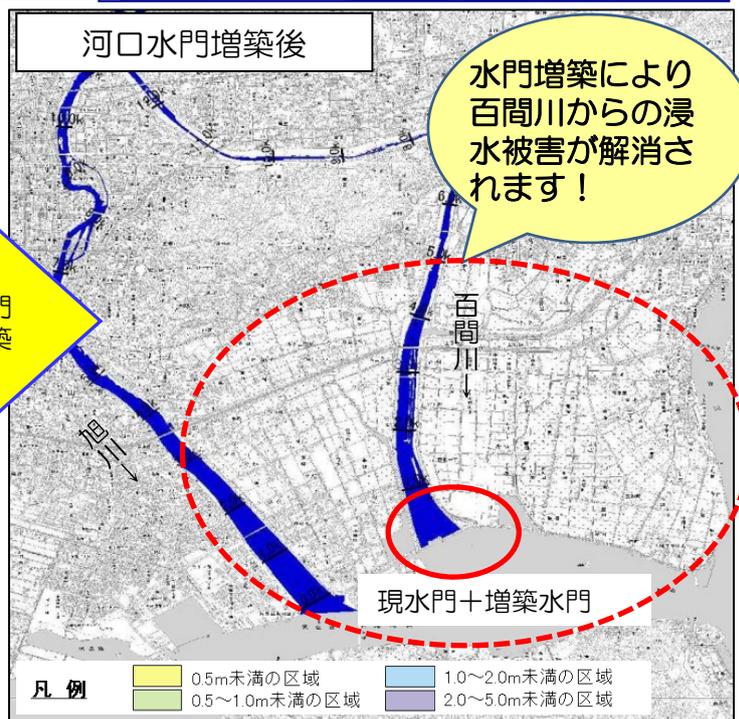
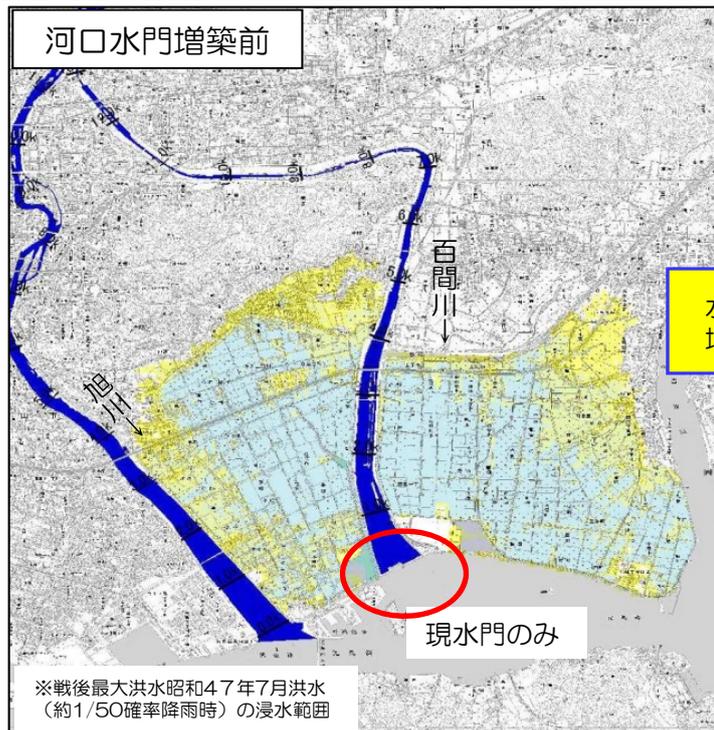
◎ライジングセクターゲート

本ゲートは、従来の引き上げによるゲート開閉作業に対して、ゲートを回転して開閉する構造です。

河口水門増築の効果

河口水門の増築により、百間川の排水能力を現在の約2倍に増強し、戦後最大洪水（昭和47年洪水）の浸水範囲（約11,000世帯）が解消！

■百間川河口水門は築造当時から、効率的な排水処理により、「洪水対策」「防潮対策」「内水対策」の3つの役割を果たしてきました。旭川下流部及び百間川沿川の安全を確保するため水門を増築し、排水能力が約2倍の2,450m³/sにアップすることで、**河口部の洪水に対する安全度が大幅に向上します。**



項目	想定被害
浸水世帯	11,378世帯
浸水面積	2,845ha



項目	想定被害
浸水世帯	なし
浸水面積	なし

百間川河口水門増築事業完成式典 位置図

